

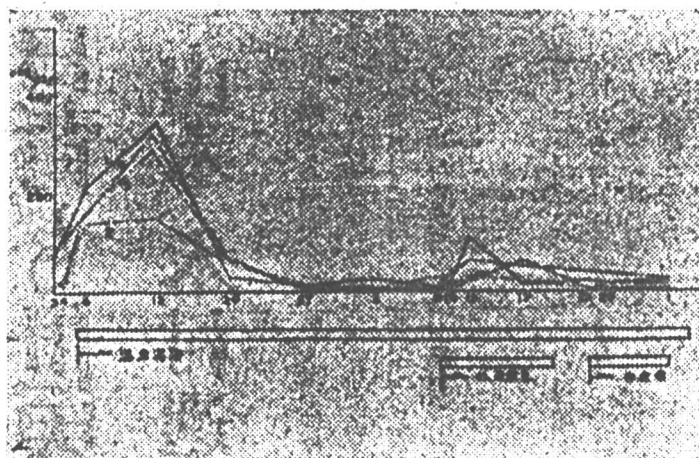
# 水俣病に考える

(8)

「正直言って温研で治療をやることになったときも、その効果については疑問と残る(恨)の念があった」と語るのは九大温研内科主任教授で、水俣病治療班の総指揮をとった矢野良一氏だ。

## 温研の見解

「なにしろ発症してから十年近くたち、期大をはじめとした権威ある機関での治療結果もあまり望ましくないものは出ていない。しかも治療開始後七、八年はたつている。病状は固定していることも考えられる」とこうおっしゃる治療班も「果たして患者の満足のかい治療効果があるのだろうか」と非難は山積があつたらしい。まして水俣病は世界にもこれまで例がない。原因、治療法いすれにも決め手はないのだ。



日本内科学会総会(京都・五月)で発表される水俣病治療結果の論文の一部。泥浴と効果によって水銀の排せつを示すデータ

## 泥浴が治療の決め手

### 湯之児の施設に期待

「神経系統の病気では、まず劑はいつさい使われなかった。急激に良くなるというこぼないのが当たり前。それだけにびっくりした。しかし、温泉による病気治療が、世界に例のない水俣病にも有効を示したという

たと言えは泥浴にしても、同温研での研究結果ではあれだけ多数の水銀の排せつを見たが、その舘間となるほどには、体内の血清S卅基(解毒成分)の増量は認められていない。したがって同温研の「水俣病治療のまとめ」(全十六頁)を見てみても「温泉泥浴で促された体内蓄積



矢野教授

水銀の排せつについては、じゅうぶん舘間がでない」と記されている。しかし、泥浴が温泉治療の大きな決め手であったことは間違いない。同十四頁には「泥浴は泥粒子という固体の介在で同温の淡水または温泉水よりも熱く感じず、しかも蒸気には高温のため血微循環を強く活発にし、新陳代謝を促進して

「泥は別府や有明海のものを選んで湯之児温泉にでもまぜれば効果は同じ。あとは機能回復の機械を湯之児の市立病院に備えさせて、温研であつたと同じ効果を期待して、三月と八月に研究班を率ゐる用は強さ、ごむが効果のあつた

効果的と思われるものが採用されたこと、われわれも温泉治療学に新分野を開拓するまでである。」「

「たゞなく泥浴で解毒作用を増進させ、合わせて機能回復の訓練をすすめる。あくまで好結果が出るかもしない」